

## ○座談会○ 日常生活と防災と市民活動

あすぴあ通信50号の特集は防災です。東日本大震災以降、異常気象による災害に見舞われ続けている日本ですが、そのたびに問題になるのが防災です。そこで、防災活動に深く関わっている4つの団体に、防災をテーマに話し合っていただきました。

**西村** こだいらソーラーの活動の中で、創エネ、ソーラーパネルで電気をつくることですが、それが減災に役立つのではないかと考えています。パネルを設置したベランダ発電や少し大きな施設での太陽光発電、これは自立運転機能というものがついているので、もし停電になってもパネルが生きていれば、電気が取れる。室内や室外にコンセントをつなげておいて、そこから電気が取れるよう用意があります。いろんなニーズに合わせた創エネが、災害時には便利だと思います。1メートル四方のパネルがだいたい50ワットの電力があって、それと、蓄電池、コントローラー、インバーターをセットにして、毎年ワークショップも開いています。蓄電池の能力は280ワットで、具体的にはノートブックのパソコン、小さな液晶テレビなどが数時間使えます。スマホの充電も十分可能です。パネルは、26,000円前後、10キログラム位だから防災グッズとしても利用可能です。

**高橋** 煙炊きには使えませんか？

**西村** 煙炊きは無理ですが、太陽熱を利用したソーラークッカーがある。日本の製品は優秀です。

**金子** いくらくらい？

**西村** 42,000円くらい。東日本大震災の時は業者に注文が殺到したそうです。

**高橋** 自前で電気を創っていく発想は、防災には必要ですね。使えるものがあるのを知っているのは強い。

**金子** 水と電気があれば、なんとか生きながらえることができるものね。

**西村** 井戸の会と協力して、ポンプの電源にソーラー発電を活用したらって話が出てるんですよ。今まで我々の活動は縦割りでエコを中心にやってきましたけど、市民活動ももっと横に繋がってもいいのかなあ。その点で、緊急に使える名簿(連絡網)つてのがあったらいいですね。

▶左から  
山本雅子さん  
(小平手をつなぐ親の会)  
西村守正さん  
(NPO法人こだいらソーラー)



▶右から  
高橋静さん  
(3.11に学ぶ小平の減災を考える会)  
金子尚史さん  
(小平井戸の会)

**司会** これから市民活動に最も必要な横のつながりについて、手をつなぐ親の会の山本さんはどう思いますか？

**山本** 私たちは障がい者の親の会なので、災害時にはどうやって子どもたちを守っていくかだけなんですけど、その前に子どもたちのことを周りの人たちに知ってほしいと活動しています。避難所で拒否反応を持たれないように、障がい者の特徴をリーフレットで紹介しています。が、全てこういう行動をとるとは限りませんが、もしこんな行動を見たら、その原因を知って理解してもらえば、周りの人も、もう少し余裕を持てるのではと。知的障がいの人たちとの接し方体験もしていますが、親たちの本音は、子どもたちが避難所で過ごすのは難しい、なんです。

**高橋** こだいらボランティアセンターで、避難所運営ゲームというのをやりました。その日集まつたのは中学生、主婦、高齢者です。平日の午後、これが災害対応者の現実です。他は帰宅困難者。何かあったときはこういう構成で対処しなくてはいけない。そのメンバーでゲーム形式で避難所のシミュレーションをするんですが、世代間で協力するという意外な結果が出たりする。すぐに家に帰ることを考えるものですが、実はいったん立ち止まって状況を見る方が、安全だし有効だったりする。

**金子** 私が井戸の会を立ち上げたのは、震災時の生活用水が心配だったから。小平はよく安全な町と言われている。私が立川断層の危険を話すと、それは小平だけじゃないからと言われます。安全な町なんて全国どこにもない。生活用水について議会で議員が質問すると、市の答えはきまって家の風呂の水と学校のプールの水で足りるっていうんだね。生活用水1日最低20リットルは、風呂とプールの水で間に合うわけ

がない。だから、いまある井戸を守って生活用水に活用する運動を始めたんです。小平には84の防災対策用井戸があります。その所在地は防災マップに小さく井戸マークで表示されているけど、これじゃとても行きつけない。仕方がないから嘉悦大学の学生と一緒に足を使って84個の井戸を探しました。それでも10か所ほど見つからなかった。

**山本** 消防署は登録しておくと障がいのある人やお年寄りには安否確認をしてくれるので、この制度は活用できますよ。会では避難訓練もしています。二葉むさしが丘学園が体育館を貸してくれるので、そこで毎年避難訓練をしています。消防署の方も協力してくれます。こういう機会に一般の方も一緒に参加してくれるとうれしいのですが、なかなか広報が足りない。

**高橋** 安全だといわれている小平ですが、弱点は火災です。なにしろ小平の道は入り組んでいて、まるで迷路。火事になったら消防車が入らない。小平市地域防災計画(平成25年修正)には市内建物の1割弱にあたる約4,800棟が焼失するとある。避難所だって、進入道路が1本しかなかったり、行けなかったり、土地の特性を知らないととんでもないことになる。ある関係者が言うには、小平は火災においては多摩地域でも立川と並んでワースト2だそうです。市ももっと危機感を持って欲しい。

**司会** これから活動での目標は？

**西村** これから防災の視点で、ベランダソーラーとかソーラークッカーを省エネグッズと一緒に紹介したいと思うのですが、どこか他の団体と連携して、みんなにアピールしていくっていうのもいいですね。

**山本** 最近は災害のたびにボランティアの人たちが手を差し伸べてくれる安心感がありますね。日ごろから周りの人たちに、障がい者のことを理解して

もらうために近所の人たちとの付き合いを大切にしていきたい、と思います。

**高橋** わたしは小平市民に、もっと危機意識を持ってもらうために活動したい。避難訓練も従来の形だけのものではなく、ゲームや新しい方法をとりいれて、より分かりやすく合理的なものを紹介していきたい。

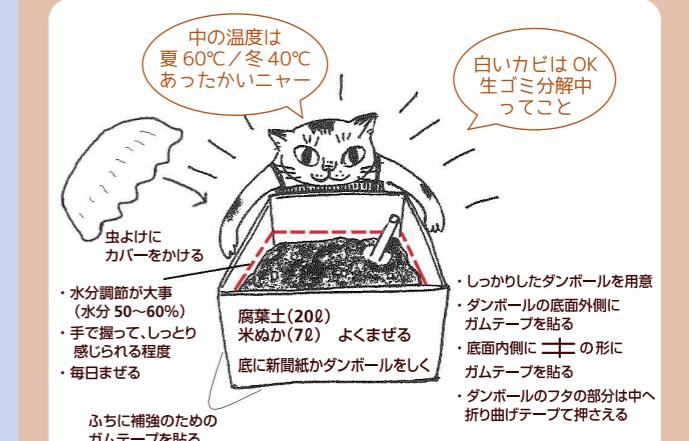
**金子** とにかく、小平にある84の井戸を守っていきたいし、もっと井戸の数を増やしていきたい。また、市民に井戸の重要性を知ってもらいたい。そのためには、若い人の意見も取り入れてなにか楽しいアピールの仕方を考えなくてはね。たとえば「井戸水ぶっかけマラソン」みたいな。グリーンロードをマラソンして、その近辺にある井戸から水汲んできてランナーにぶっかけるっていう突飛なアイデアも学生の中から出てきたんです。面白いish。

**高橋** じゃ、水かけるときは、防火訓練も兼ねて、バケツリレーってのはどうですか。

**司会** そんなふうに、楽しく身近に防災を考えるチャンスがあるといいですね。みなさん、今日はありがとうございました。

### 一家に一個、ダンボールコンポスト

災害によって出たごみをどうするか。災害が起ると、まず問題なのは水、食料、エネルギーですが、ごみの問題も深刻です。回収されない、リサイクルもできない、たまついくだけのごみをどうするか。日頃から家庭内のごみについて考えるのも防災意識です。ダンボールコンポストは、生ごみを堆肥に変える魔法の箱です。作り方も簡単で、使っていくうちに、ごみは不要なものではなく、実は大切な資源だということがよくわかります。



提案》NPO法人 小平・環境の会